613-001479 Rev.K 140523

Allied Telesis

AT-TQ2450 リリースノート

この度は、AT-TQ2450 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1　ファームウェアバージョン　2.0.6

2　本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **2.0.2** から **2.0.6** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

2.1 5GHz 帯の W53（52、56、60、64）や W56（100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140）のチャンネルに設定された本製品が、無線コントローラーによるデバイスロケーション（無線機器の探索）の実行によってレーダーを検出すると、デバイスロケーション完了後に無線電波が停止することがありましたが、これを修正しました。

2.2 無線コントローラーの WLAN > Advanced Configuration > WIDS Security 画面で次の設定を行うと、無線コントローラーの管理下にあるアクセスポイント（Managed AP）が次のように判断されることがありましたが、これを修正しました。
- 「Fake managed AP on an invalid channel」を「Enable」に設定すると、Managed AP が「Rogue」と判断されることがある
- 「Invalid SSID from a managed AP」を「Enable」に設定すると、Managed AP が「Unknown」と判断されることがある

2.3 「無線」画面の「Auto チャンネル候補」でチャンネルの候補を制限するように設定すると（部分的に候補のチェックを外すと）、すべての候補を選択する設定（デフォルト）に戻そうとしても、候補が制限されたままの状態となっていましたが、これを修正しました。

2.4 mDNSResponder 関連の不要なログが表示されることがありましたが、これを修正しました。

2.5 本製品に接続している無線クライアントの情報を SNMP により取得する際のパフォーマンスを改善しました。

下記の項目は、ファームウェアバージョン 2.0.1 のリリースノートに記載されておりませんでしたが、実際には 2.0.1 で修正されていました。

2.6 無線コントローラー管理下の本製品における事前認証（Pre-Authentication、WLAN > Advanced Configuration > Networks 画面）が行われていませんでしたが、これを修正しました。

3　本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **2.0.6** には、以下の制限事項があります。

3.1　VAP

参照「リファレンスマニュアル」/「詳細設定」/「VAP」

ダイナミック VLAN（WPA エンタープライズ）環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。

3.2　WDS

参照「リファレンスマニュアル」/「詳細設定」/「WDS」

WDS において、2 台以上のアクセスポイントを中継した多段接続は未サポートとなります。無線ネットワークの中心となる 1 台のアクセスポイントに対し、同一機種を最大 4 台まで接続し、エリアを拡張することができます。

3.3　送信 / 受信

参照「リファレンスマニュアル」/「ステータス」/「送信 / 受信」

「送信 / 受信」画面の wlan0wds0 ～ 3 の「ステータス」が正しく表示されません。

3.4　V.1.2.0 からのアップグレード

参照「リファレンスマニュアル」/「保守管理」/「アップグレード」

○　「アップグレード」画面の「切り替え」ボタンを使用して、V.1.2.0 以前のファームウェアから V.2.0.1 以降のファームウェアへの切り替え（アップグレード）を行うと、次の項目が無効となります。切り替え後にこれらの項目を設定してください。詳細は、リファレンスマニュアルのそれぞれの項目を参照してください。
・「詳細設定」/「無線」画面の「MCS（データレート）設定」
・「詳細設定」/「Managed AP」画面の「WDS 運用モード」「WDS 運用時のイーサネットポート」

○　クラスター機能を使用するように設定された V.1.2.0 以前のファームウェアを持つ本製品をそのまま V.2.0.1 以降のファームウェアにアップグレードすると次の項目が無効となります。
（a）「詳細設定」/「無線」画面の「MCS（データレート）設定」
（b）「詳細設定」/「Managed AP」画面の「WDS 運用モード」「WDS 運用時のイーサネットポート」
クラスター機能を使用するように設定された V.1.2.0 以前のファームウェアからのアップグレードは、次の手順で行ってください。
（1）アップグレードを行う本製品の「クラスター」/「アクセスポイント」画面の「クラスターの停止」ボタンをクリックします。
（2）「保守管理」/「アップグレード」画面でアップグレードを実行します。（a）（b）の項目は、アップグレードしたファームウェアにおけるデフォルトが設定されます。
（3）クラスターを構成するすべての本製品に対して（1）（2）を繰り返します。
（4）クラスターを構成するすべての本製品の「クラスター」/「アクセスポイント」画面の「クラスターの開始」ボタンをクリックします。
なお、上記の手順の実行後に（a）（b）の項目が無効となってしまった場合は、クラス

ターを再構成した後に（a）（b）の項目の設定をお願いいたします。詳細は、リファレンスマニュアルのそれぞれの項目を参照してください。

4　ファームウェアのアップグレードにおけるご注意

重要：アップグレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。
また、アップグレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。

4.1　V.1.0.0 → V.1.1.6 以降へのアップグレード

参照「リファレンスマニュアル」/「保守管理」/「アップグレード」

ファームウェア V.1.0.0 から V.1.1.6 以降へのアップグレードは、まず V.1.0.0 から V.1.1.5 にアップグレードし、引き続き V.1.1.5 から V.1.1.6 以降にアップグレードしてください。

直接、ファームウェア V.1.0.0 から V.1.1.6 以降へのアップグレードを行わないでください。これを行うと、ファームウェアが正常に更新されません。これを行ってしまった場合は、この状態から V.1.1.5 にアップグレードし、その後 V.1.1.6 以降にアップグレードしてください。

ファームウェアは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

http://www.allied-telesis.co.jp/

4.2　V.1.1.0 ～ 1.2.0 → V.2.0.6 へのアップグレード

参照「リファレンスマニュアル」/「保守管理」/「アップグレード」

アップグレード前の通信モードが IEEE 802.11n を含む場合、VAP のセキュリティー設定が「スタティック WEP」や「IEEE802.1X」に設定されていると、V.2.0.6 へのアップグレードによって VAP のセキュリティー設定が「無し」に変更されます。

アップグレード前に、セキュリティー設定を「WPA パーソナル」や「WPA エンタープライズ」に変更し、それに合わせて無線クライアントのセキュリティー設定も変更してください。「スタティック WEP」「IEEE802.1X」には脆弱性があります。強力なセキュリティーの「WPA パーソナル」「WPA エンタープライズ」の使用をおすすめいたします。
アップグレード後に、セキュリティー設定を「WPA パーソナル」「WPA エンタープライズ」い変更することもできますが、一時的にセキュリティー設定が「無し」となるためおすすめいたしません。

アップグレード後も「スタティック WEP」や「IEEE802.1X」をご使用になりたい場合は、アップグレード前に IEEE 802.11n を含まない通信モードに変更してください。

4.3　V.2.0.6 から V.1.1.5 へのダウングレード

参照「リファレンスマニュアル」/「保守管理」/「アップグレード」
「リファレンスマニュアル」/「オプション設定」/「NTP」

ネットワークタイムプロトコル（NTP）を使用しており「タイムゾーン」が「Japan」に設定されているとき、V.2.0.6（V.1.2.0）から V.1.1.5 にダウングレードすると、NTP で取得した時刻に 9 時間が加算された時刻が表示されます。
この事象の回避は、ダウングレードした V.1.1.5 で NTP 画面の「タイムゾーン」を

「(GMT+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo, Yakutsk」から「(GMT) Greenwich Mean Time: Lisbon, London」に変更してください。

ダウングレードした V.1.1.5 から再び V.2.0.6 にアップグレードする場合は、アップグレードする前に V.1.1.5 で「タイムゾーン」が「(GMT) Greenwich Mean Time: Lisbon, London」であることを確認した上で行ってください。「切り替え」ボタンでファームウェアのバージョンを切り替える場合も同様です。

また、ダウングレードした V.1.1.5 → V.1.2.0 → V.2.0.6 の順にアップグレードする場合は次の手順を実行してください。
(1) V.1.1.5 で「タイムゾーン」を「(GMT+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo, Yakutsk」に変更してから、V.1.2.0 にアップグレードしてください。
(2) V.1.2.0 から V.2.0.6 にアップグレードして、V.2.0.6 で設定を初期化し本製品の再設定を行ってください。

5 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル（613-001462 Rev.E）は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

http://www.allied-telesis.co.jp/